

代官山は新旧の魅力を織り込むタペストリー。 ビギナーの方に贈る広域代官山の文化地誌。

東急東横線と東京メトロ副都心線他による相互直通運転が始まり、川越・所沢方面から乗り換えなしで代官山へ来られるようになり、初めて代官山を訪れる方も増えている。

一口に代官山エリアといってもその範囲は時代とともに変化している。昔は渋谷駅、恵比寿駅、中目黒駅を結んだ三角形のエリアを指していた。今では大ジャンクションで存在感を増す池尻大橋駅も入れて矩形のエリアを「広域代官山エリア」と呼んでいる。流行のカフェの魅力もさることながらここ代官山周辺は想像以上に古い歴史がある。古いものを大切に新しい価値を受け入れてきたのが代官山の魅力。代官山を愛する代官山ビギナーの方へ、知られざる代官山の文化地誌を紹介する。

代官山は山である。

周辺を地形図でみると、代官山エリアの東側に渋谷川、西側に目黒川が流れ、その二つの河川に挟まれた西渋谷台地の東端にあることが分かる。渋谷川側はなだらかな斜面だが、目黒川側は急峻な崖で区切られている。代官山は少し遠方から見れば文字通り「山」である。そのため高台と坂道が多いのも特徴である。

三田用水と代官山。

西渋谷台地の稜線を縫うように1664年、江戸中期に玉川上水から分水した三田上水（後に三田用水）が流れていた。明治時代にはこの水を利用した水車小屋が多数作られ、その動力を利用した米屋、粉屋、軽工業が発達した。海軍の火薬工場の動力源にも使われた。これも西渋谷台地の頂上から川の水面までの高低差が約20メートルもあったためである。昭和になって暗渠化され、1974年に廃止された。当時の水路はほとんど見ることはできないが八芳園、雅叙園、西郷山公園、池田山公園などに三田用水の残した景観的価値をみることができる。

大交通機関で囲まれる代官山。

代官山は川だけでなく周囲の幹線道路では、国道246号線、駒沢通り、明治通り、山手通りで囲まれている。鉄道は渋谷～恵比寿間のJR・埼京線。恵比寿～中目黒間は東京メトロ日比谷線で結ばれている。渋谷～池尻大橋間は東急田園都市線でつながっている。その渋谷は東急東横線がメトロ副都心線と地下の新しい渋谷駅でつながったばかりだ。

渋谷は日本を代表する大ターミナルだが2012年の渋谷ヒカリエの完成を皮切りに「渋谷駅周辺地区」の大規模都市計画がスタートしている。エリア内には金王八幡神社に由来する「八幡通り」とそれに交叉する「旧山手通り」がある。コミュニティバスは渋谷駅西口を始発に東急トランセの「代官山循環線」が一周している。

「国道246号線」は江戸時代中期に大山詣でで賑わった「大山街道」であり「八幡通り」は昔の「鎌倉街道」といわれている。

東横線渋谷駅の一つ目が代官山駅だが渋谷と代官山は明らかに異なり違う魅力がある。だからこそ相互に魅力的なのだ。

代官山駅と同潤会代官山アパート。

東横線代官山駅は東京急行電鉄（略：東急）の前身、東京横浜電鉄の駅として1927年（昭和2年）開業。これに前後して「同潤会代官山アパート」が、竣工していった。同潤会アパートは大正12年の関東大震災の災害復興住宅の一つだ。代官山駅前に全38棟337室の日本初の鉄筋コンクリート造りの大規模集合住宅が誕生した。その後2000年に「代官山アドレス」として建替・再開発された。

～江戸の記憶を地名に辿る～

1 暗闇地蔵尊（渋谷区猿楽町30番地）

代官山交番の横から下る坂のとっかかりに、小さな地蔵尊がある。文政元（1818）年の造立。台座には「右大山道、南無阿弥陀仏、左祐天寺道」と刻まれている。暗闇坂を下り、目黒川を越えて南へ進むと祐天寺へ、北へ進むと大山道（国道246号）に達することを示している。現世と来世をつなぐ地蔵信仰と、実際の道に迷わないようにとの二つの道をしめす優しい道しるべだ。



ASPI提供

2 暗闇坂（目切坂）

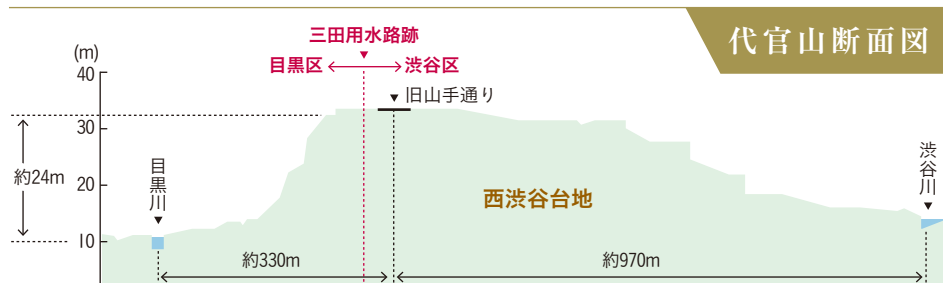
日差しをさえぎるほど濃く高く繁った木々のおかげで、真夏でもここは涼しい。そこでついた名前が「暗闇坂」。別名「目切坂」ともいわれるが、かつてここに石臼の目を切る職人が住んでいたことに由来している。石は目と呼ばれる部分に刃物を当てて打つと容易に割れることから、この別名が生まれた。この坂は「関東の富士見100景」にも選ばれている。

3 鎗ヶ崎（やりがさき）

駒沢通りと旧山手通りが交差する一帯を鎗ヶ崎というが、この地名も古い。現在は交差点を指しているが、もとはこのあたりが台地の先端部分にあっていたことから、武具の鎗の先に似たとがった地形から名づけられたようだ。

三田用水、暗闇坂地蔵尊、目切坂、鎗ヶ崎等どれも代官山が、江戸から地方へ、地方から江戸への境目であり今に続く交通の要衝であったことがわかる。

代官山の地名そのものについては代官屋敷があったとか、代官管理のものだった説などが古くから伝わっているだけで、正確にはわからない。



広域代官山名所旧跡案内

東急トランセ 代官山循環線	東急バス (恵32系統)	東京メトロ日比谷線	郵便局	寺院
東急バス (洗71系統)	ハチ公バスルート	交差点	交番	教会
東急バス (洗72系統)	東急東横線	公園	学校	図書館
東急バス (洗41系統)	JR山手線・埼京線	坂	神社	博物館

4 旧朝倉家住宅 (重要文化財) (渋谷区猿楽町29-20)



渋谷区提供

2004年に国の重要文化財として指定され、渋谷区が管理している。大正8(1919)年建造の和風木造住宅。明治時代から手広く米穀商を営み、後に東京府議会議長、渋谷区議会議長を歴任した朝倉虎次郎氏の自邸である。2階建ての母屋の一部と回遊式庭園は見学できる。入館時間：10時～18時(11～2月は16時30分まで)、最終入館は30分前まで。月曜(祝日の場合は直後の平日)、年末年始、休館。観覧料：一般100円、小学生50円、年間観覧料500円。車での来場は不可。

5 猿楽塚 (渋谷区指定史跡)

6～7世紀の古墳時代末期の円墳。ここには2基あったといわれるが現在見ることができるのは大きな親塚の方で、高さ5メートル。この親塚を猿楽塚と呼び、『江戸名所図会』には去我苦塚と記されている。この塚上に朝倉虎次郎氏がお社を建立。天照大神、素戔鳴尊、猿楽大明神、水神、瘡守稲荷をまつる。

6 西郷山公園・菅刈公園 (目黒区公園)

江戸時代からの名園。明治に入り西郷隆盛の弟・従道が、兄の再起を願ってあたり一帯、約6haもの土地を購入。結局、従道自身の別邸として建設が始まった。設計はフランス人、デスカース。回遊式庭園は東京一の名園と評判といわれた。洋館は明治村に移築、公開されている。邸宅跡地の一部が西郷山公園として整備され、昭和56年から区立公園となっている。西郷山公園と地続きの邸宅と庭だった部分を2000年頃から区立公園としてかつての庭園の姿に近づけようとする復原工事が行われた。その結果、石組みを使った滝や池も復原された。西郷山公園・菅刈公園は多くの方に愛され、代官山のセントラルパークという人もいる。桜丘、西郷山、目黒川とつながる桜は見事で開花の季節には多くの人を惹きつける。



めぐる観光まちづくり協会提供

7 目黒天空庭園 (目黒区大橋1-9-2)

首都高の大橋ジャンクションの屋上に平成25年3月に開設された、都市の中の庭園。楕円形のループ状で、延長400メートルにも及ぶ。高さは11～35メートルにもなり、東口広場の展望台デッキからは植えられたアカマツ越しに富士山が見える(はず)だ。花の段々畑、目黒のタケノコに因んだ竹林、など様々な植物が植えられて楽しい散策路になっている。

8 金王八幡神社

渋谷駅にも近い金王八幡神社の歴史は古く、徳川時代には將軍家光の乳母・春日局が参詣したことで知られ、社殿や門の造営にも力を尽くしたと伝わっている。江戸時代前期から中期の建築様式をとどめている貴重な建物。神社の金王桜(区指定天然記念物)一重と八重が混在して咲く珍しい桜で江戸時代には「郊外三銘木」のひとつと数えられていた。

9 猿楽古代住居跡公園 (渋谷区文化財)

約2000年前の弥生時代の住居跡とみられている。1977(昭和52)年から始まった発掘調査で、このあたりから住居跡や弥生式土器が数多く出土した。弥生時代後期にすでに代官山には人が住み、稲作をしていたことが想像できる。

10 渋谷区ふれあい植物センター (渋谷区東2-25-37)



渋谷区提供

200種類の熱帯植物が生い茂る温室「グリーンガーデン」が中心の植物園。2階3階の多肉植物コーナーやハーブガーデン、実習室、講習会も人気がある。

11 八幡通り

並木橋から旧山手通りへ至る、古い代表的メインストリート。名称は金王八幡神社に由来。八幡通りは代官山町、猿楽町に面し、通りの両側には老舗レストラン、有名西洋菓子店、ブティック、新しい商業ビルなどが並び、ウィンドウ・ショッピングを楽しみながら歩ける。

12 ひまわりガーデン 代官山坂プロジェクト

代官山を愛する住民、商業者、来街者が一緒に自然と楽しめる活動はできないか、と始められた街づくりプロジェクトのひとつ。代官山坂のスペースを使って、毎春ひまわりの種を植え、花をめで、種を採取し、また翌年の活動につなげる。

13 氷川神社 (渋谷区東2-5-6) とその周辺周辺文教地区

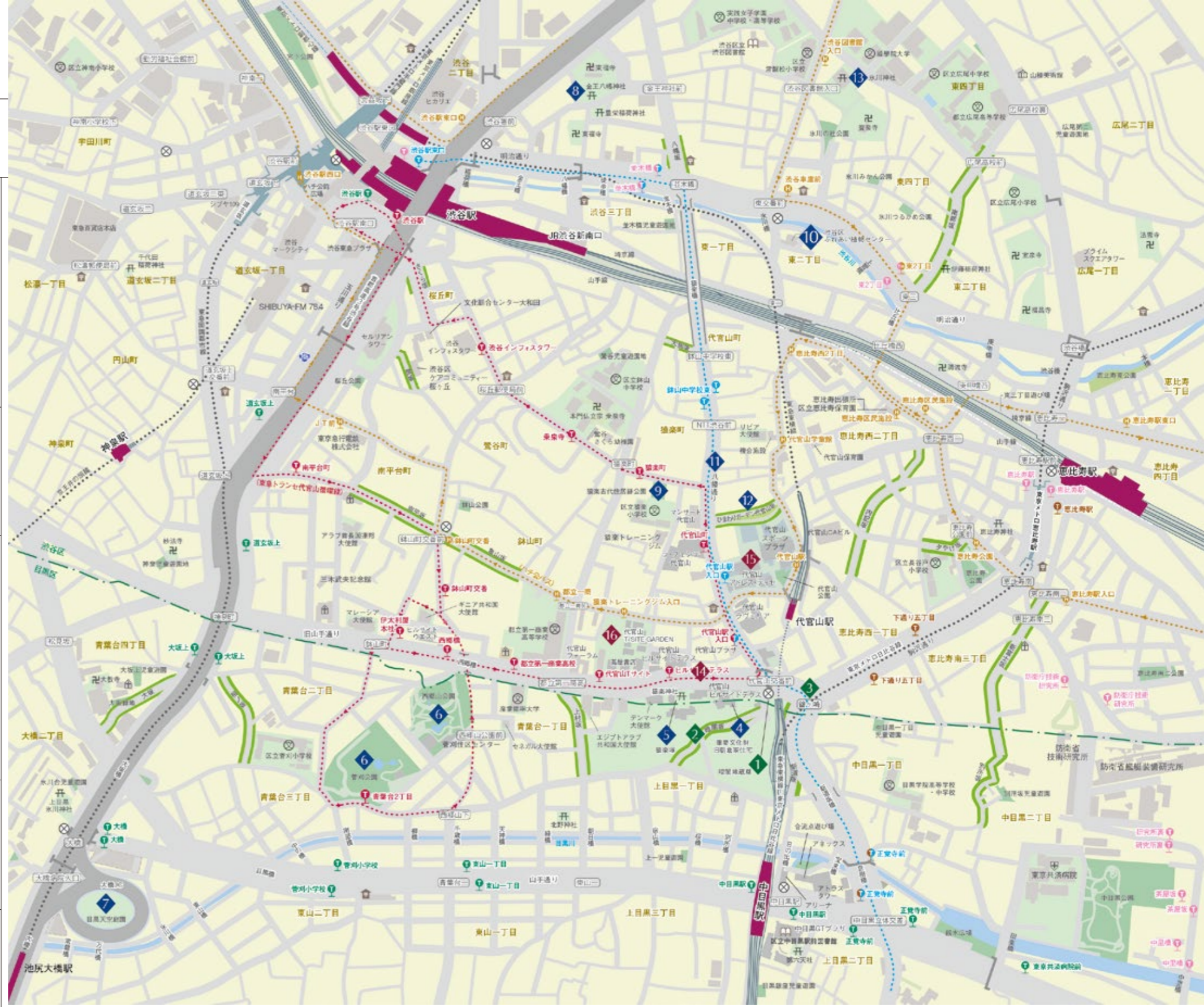
御祭神の筆頭が須佐男尊種であることから関東武士の守り神として、関東一円に多いのが氷川神社。ここは渋谷氷川神社と呼ばれ区内で最も古い神社である。金王相撲として知られた力自慢の相撲大会が開かれた土俵跡がある。



井上桂 撮影

周辺文教ゾーン

氷川神社の周辺は昭和26年指定の広大な文教地区だ。2012年創立130周年を迎えた國學院大学は神職養成や国学普及が基本である。考古学などをテーマにした國學院大学博物館も公開され、最近では渋谷、代官山への地域貢献活動も熱心である。2015年4月には実践女子大学の渋谷キャンパスが同学園中学校・高等学校に隣接して開校する。他に渋谷区立常磐松小学校、渋谷区立図書館、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館。区立広尾小学校・中学校・高等学校。山種美術館等がそろうている。代官山駅からキャッスルストリートをまっすぐJR方向へ向かい、JR横断歩道橋を渡ると目の前の東渋谷台地の高台に文教地区にふさわしい知の拠点が見えてくる。



いつのまにか新たな魅惑が誕生

— 第1フェーズ —

14 ヒルサイドテラスの誕生

今日の代官山イメージは旧山手通りの「ヒルサイドテラス」の登場と存在抜きには話れない。1968年、建築家・横文彦氏と朝倉不動産の出会いで最初のAB棟が誕生した。以来、200mにわたり、住居、店舗、事務所からなる街なみがゆっくり時間をかけて創られた。朝倉不動産は30年間の活動に対して「1998年メセナ大賞」を受賞。その理由に「地区のセンターの役割を超えた、創造的な文化のインキュベーターとして多年にわたる貢献と実績が深い共感を呼んだ」とある。単純に時間をかけただけでなくことを雄弁に物語っている。

— 第2フェーズ —

15 代官山アドレスの誕生

2000年に誕生した代官山アドレスは「同潤会代官山アパート」の建替、再開発で「代官山市街地再開発事業」と呼ばれる。住民が主体となった法定再開発である。施設には同潤会の記憶がいくつか埋め込まれている。超高層住宅「ザ・タワー」のほか、ショッピングセンター「代官山アドレス・ディセ」、プールもある渋谷区の公共施設「代官山スポーツプラザ」などこれまでの代官山にはない複合的な大型都市施設である。これを契機に八幡通りには、ラ・フェンテ代官山、マンサード代官山等、新しい商業・業務ビルが続いた。

— 第3フェーズ —

16 DAIKANYAMA T-SITE 代官山 蔦屋書店の登場

カルチュア・コンビニエンス・クラブ (CCC) による「代官山 蔦屋書店」は旧山手通り沿い、ヒルサイドテラスのGH棟に隣接して2011年に誕生した。景観を大切に地域に溶け込むように低層の「代官山 蔦屋書店」が3棟並んでいる。ここは「書店」といっても一般的な書店ではない。雑誌をはじめ顧客の期待するライフスタイルを豊かにする、多数の文化的情報とサービスが集積している。いわば施設全体が密度の高い「文化の森」なのである。毎日新しい発見がある空間、これも代官山だけでなく世界に例を見ない魅力だ。



変化する街「代官山」といわれるが、代官山のエポックを築いた施設群だけでなく、代官山には規模の大小、価格の高低ではない魅力店舗が無数に集まっている。

キラ星のように輝く魅力の総体が代官山の魅惑（人を惹きつける地域価値）なのだ。

そのすべてを「代官山新聞」で紹介することは不可能だ。

『代官山ホームページ』のショップガイドを手掛かりにあなた自身で発見して頂きたい。

ネット店舗では手に入らない飛び切りの代官山時間、代官山体験、代官山経験をお楽しみください。



代官山ホームページ

Daikanyama Homepage

1999年に開設。代官山エリアのコミュニティ・ポータルサイト。2014年4月からNPO法人代官山ステキ総研が運営している。
<http://daikanyama.ne.jp>

NPO法人

代官山ステキ総合研究所

1992年、東京都から認証されたNPO法人。代官山の地域シンクタンクを標榜している。その活動目的はさまざまな視点から地域ブランド（地域価値）を調査、研究し。地域の活性化・情報化に資するコミュニティ・デザインの開発・提言等を行う。

<http://daikanyama.ne.jp/dsi/>

〒150-0033

渋谷区猿楽町30-8ツインビル代官山B-601

発行：NPO法人代官山ステキ総合研究所 理事会

執筆：平松由美 岩橋謙次

協力：朝倉不動産(株) 代官山T-SITE

デザイン：比留間 瑞紀 (Flutter Design)